８月７日意見

別紙

	事務事業名	意義	内容・手法	効果・課題	その他	判　定	特記事項
Ａグループ	文化会館自主文化事業	・コストはかかるが良質な芸術文化を市民に提供する事業。 ・都市部に行かなくても地元で有名な歌手や劇団に会える。著名な音楽を聴くことができる。	・入場料が安すぎるのではないか。人気のある催しで、入場料がかからないものは、500円程度とっても良いのではないか。 ・チケットの買い方、残数等の情報にたどり着かない市民が多いのではないか。周知方法に工夫が必要。 ・様々な催しを考える委員会の高齢化や長い任期が課題。市民ニーズを適切に把握できているのか。	・集客数が知名度に左右されている。 ・来場者数が市外からの方が多い。市民向けと市外向け、切り分けて事業戦略を練るべき。 ・R7は記念式典やジュピターホール改修工事があったことが事業費増大の要因につながっているということだが、例えば集客が見込めなかった場合はその催しの規模縮小を考えてはどうか。 ・若い人に見てもらうこととと、人を呼ぶことは課題として分けて考えるべき。	・豊岡市や養父市等近隣自治体との広域連携を進めてはどうか。 ・普段体験できないことや参加型にする、専門性の高い催しなど、朝来市の芸術文化活動としての強みが必要。	改善	良質な芸術文化を市民に届けるために重要な事業であるが、市民ニーズに沿った事業の展開や催し情報の周知方法についてはさらなる改善が必要である。 また、朝来市として、戦略的に芸術文化活動をどう考えていくかが大切であり、他市との広域連携や特色ある催しを考え、朝来市の強みを考える必要がある。
Ｂグループ	路線バス等生活交通利用促進事業	・市民の移動手段を確保する上で、必要な制度。この取り組みによって、市民が、商業施設や通院のために利用することができ、公共交通が市民にとって使いやすく身近なものになっている。	・上限がないため、際限なく利用できてしまう。	・一部の方の利用が過度に多い。 ・乗合率が低く、運行の3/4が一人乗り状態で「タクシー化」している。 ・観光客利用によって、さらに利用が圧迫されているケースもあると聞く	特になし	改善	一部利用者による過度な利用が見られ、制度の公平性確保が課題。今後のICカード化に合わせ、利用実態を踏まえた利用回数の制限など、より多くの市民が公平に利用できる制度への見直しが必要。また、乗合率が低い現状を踏まえ、公共交通を維持していくためにも、乗り合い利用の必要性やメリットについて、市民への周知・啓発を進め、効率的な運行につながる利用促進の検討を行う必要がある。